

# 日本では…大学入試に「特別枠」

## 親の地位ありき 平等性の観点で疑問

日本の国家公務員採用にも血筋による特別枠はあるのか。「こちら特報部」が念のため尋ねると、人事院の担当者は「そんな「枠」は存在しない。平等に試験を受けて入っている」と否定した。

では、日本社会が選抜において血筋優遇と無縁かというところではない。例えば、一部私立大では卒業生らの子どもや孫向けの特別枠を設けている。

この特別枠は、18年に発覚した東京医大入試での女性差別などをきっかけに議論になった。文部科学省は

同年の調査で、医学部医学科のある全国81大学のうち、募集要項に明示せず卒業生の子どもの合否判定で優遇していたとして、東京医大や金沢医大、日大、昭和医大を「不適切」とした。

文科省の有識者会議は19年の最終報告書で、医学部に限らず、大学入試における卒業生の子や孫向けの枠に対し「広く社会から理解が得られるよう特別枠の必要性や募集人数、選抜方法の妥当性等について、より丁寧に説明することが必要」と注文を付けた。

現在も日大や、兵庫医科

大や東京農大などが卒業生の子らを対象にした枠を設けている。多くが「建学の精神を受け継ぐこと」を期待などと記す。文科省の担当者は「枠を設定する場合は不公正な入試にならないよう、エビデンス(根拠)に基づき丁寧に説明を願っている」と話し、枠自体は問題ないとの立場だ。

しかし、東大大学院の中村高康教授(教育社会学)は「受験生の立場から見ると、座るべき椅子が卒業生の子らの指定席になっている」と指摘し、不公平感が強い。定員割れのような大学



同窓会組織の運営を巡り、警視庁の自宅捜索を受ける東京女子医大。同窓会は卒業生の子らを対象にした推薦枠の不適切な運用も取りざたされている。3月、東京都新宿区で7月18日、バンブーデンスの首都タックで、警察官と衝突するデモ参加者ら。ロイター・共同

## 政界も世襲だらけ「多様な人材が入りづらい」

は、卒業生を頼って一人でも学生を集めたいという事情もあるだろうが、公平性の観点からは基本的に必要ない」と指摘する。

また、特別枠は、恵まれた親の地位が子どもに引き継がれる「社会階層の再生産」につながりかねないと言く。「私学も公金で助成を受けており、何をやっても自由というわけにはいかない。特別な枠を設ける以上は狙いや正当性を、結果の検証を含めて説明することが求められる」

文科省は卒業生の子や女性などに対する特別枠の導入状況について集計していないが、東北大の倉元直樹教授(大学入試学)は「文科省はずっと大学入試の多様化を進めてきた。増えているとは思ってはいない」と話す。

ただ、その効果には懐疑的だ。「日本の大学は、ユニークな選抜で入試そのものをブランディング戦略にしてきたが、世間から特権的なイメージを持たれてマイナスに働くこともある。特に競争の激しい医学部などで、卒業生の子どものための枠を作ると、『すくなくとも』と批判を受ける可能性がある」

は高く、受験生からは「そう見られるのも嫌」と、敬遠されることもあり得る」日本の公職で子や孫向けの枠が拡大しているように見えるのが、岸田文雄首相をはじめとする世襲だらけの政界だ。自民党派閥の政治資金パーティーを巡る裏金問題で渦中にいた二階俊博元幹事長も次期衆院選には出馬せず、息子が選挙区を引き継ぐことになった。

長年日本政界をウオッチしてきたジャーナリストの鈴木哲夫さんは「政治が家業になってしまい、財産や人間関係を含めて引き継ぐ一族優遇によって、女性を含めて多様な人材が政界に入りにくくなっている」と既得権益化する構造に警鐘を鳴らす。「各政党が率先して世襲を行わない方針を打ち出すなど、現状を変えていく必要がある」と強調した。

### トピック

国や分野を問わず、選ばれる階層の固定化に不満や不公平感の源となり、社会の活力を奪う恐れがある。特別な枠は本来、弱者を守り、多様な人材が活躍するために設けられるべきだろう。「結局は親ガチャ」というあきらめを生じさせ、特権階級をつくるような枠ならいらない。(北)